37

みなかみ　山崎朝雲

大正四年（一九一五）　木彫
二一・〇×二四・〇×二八・五

一点

市女笠をかぶった女性が、左手には畳んだ懸帯を持ち、右手は掌を上に向けて祈りを捧げるかのように、静かにたたずむ姿を現した作品である。女性は大袖の衣を壺折にして、抜衣紋に着装しており、中世の女性の旅装束を身につけている。みなかみは、「水神」あるいは「水上」を意味し、古来より水を司る罔象女神（みずはのめがみ）がこの姿に重ねられている。川上から絶えずただよい流れる水を、旅姿の女性として表していると考えられる。木目の美しいタモ材が用いられている。

作者の山崎朝雲は、明治四十年（一九〇七）に岡倉天心の指導のもと日本彫刻会を結成し、これ以降、東洋、日本の神話や伝説、歴史に取材した作品を発表している。明治四十三年の『美術新報』（九巻五号、画報社）に掲載された記事「我が木彫」のなかで、朝雲は中世の絵巻から作品の主題やその風俗を取り上げていると述べている。本作もまた、絵巻に描かれた巡礼の女性を参考にしているのであろうか。大正四年（一九一五）の第九回文部省美術展覧会に出品され、買い上げられた品である。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生——作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録No. 72

編集　宮内庁三の丸尚蔵館

制作　株式会社 東京美術

翻訳　黒川廣子

発行　宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan